

第5回放課後子どもプラン運営委員会

日 時 12月16日(金) 午前10時から11時半

場 所 小金井市役所第二庁舎801会議室

出席者 田中委員長、浦野副委員長、小山田委員、佐野委員、齋藤委員、関委員、大久保委員、富沢委員、内田委員、永井委員、石原委員、中村コーディネーター、伊藤コーディネーター代理、古源コーディネーター、西田コーディネーター、吉田コーディネーター、吉楽、

欠席者 中野委員、小菅委員、菊池委員、前島委員、加藤委員、小林委員、伏見委員、梶野委員、小岩コーディネーター、森田コーディネーター、伊野コーディネーター

傍聴者 なし

1 コーディネーター報告

【一小】進捗状況は概ね順調です。お料理教室で生キャラメルを作りましたが、ゴムベラが変形し、キャラメルに入ったかもしれないと連絡があり、参加者全員に確認しましたが、異物混入はありませんでした。メーカーに問い合わせましたが、体外に排出される材質を使っているため安全と確認できました。スタッフと安全に対する心がまえを再確認しました。

【二小】予定通り進捗しています。

【三小】12月の放課後土曜日に楽器探検隊のボランティアによる、杉並高校吹奏楽部を招いての100人規模のコンサートがありました。無事に問題なく終了しました。

【東小】図書クラブは余剰予算をもらって60回に増加し、3学期実施予定です。推進委員会は、参加者が少ない教室について、来年度募集方法を変える等、対策検討中です。

【本町小】金曜日の放課後子ども教室は、全18回開催しました。毎回50～90名が多目的室で参加しました。会場が狭いので毎回校庭や体育館を学校の許可を得て使用しました。

12月3日に一中吹奏楽コンサートを開催しました。165名が参加し、無事終了しました。内容も子ども向けに対応し、毎年恒例にしたいという意見がありました。スポーツ教室は、バレーボール5回、卓球、バトミントン、レッツ運動教室を各1回ずつ開催しました。バレーボールは毎回15名程度、卓球、バトミントン、レッツ運動教室は毎回70～80名参加しました。英語教室は全8回で終了しました。来年1月5日に伝統文化教室を開催予定です。

【緑小】11月は予定通り実施しました。緑小は毎週水曜日、土曜日、低学年保護者会、個人面談週間に合わせて教室をやっています。ビーズ教室は168名申し込みがあり、初級、上級で2日間で開催しました。一年生の1クラスがインフルエンザによる学級閉鎖のため、学校と相談しそのクラスの子のみ別教室でビーズ教室を実施しました。12月8日に学校の非難訓練に参加しました。体育館で地震があった場合の想定で、上履きの重要性や、マイクが使えない場合等を想定しました。3学期は教室で地震があった場合を想定します。今週土曜日はいけばな教室。来週金曜日は農工大学生の落語教室を実施します。

【事務局】欠席コーディネーターの報告をさせていただきます。四小は、10月28日(金)と11月11日(金)は雨で中止しましたが、それ以外は火曜日・金曜日に校庭遊び、水曜日に室内遊びを開催しました。前原小は、11月に6回実施しました。11月21日(月)

は学童と合同避難訓練。12月は月・金6回の予定で、12月1日役員会、12月9日校庭開放の他に、低学年図書室見守り、12月16日は推進委員会、校庭遊びの他に、季節のクラフトを予定しています。南小は11月24日は雪のため中止で4回。12月も4回、1月も4回開催予定です。2月は最終調整中です。

【外部委員】各学校のコンサートについて、放課後子ども教室としてやるのはどうか。稲城市、小平市は保険として個人負担をする。申込には個人が明確である。各校コンサート、三小水でっぽう大会、健全育成6地区スポーツフェスタ等は「お誘い合わせの上」という呼びかけだが、放課後子ども教室は登録した人向けの教室ではないか。

【コーディネーター】今回は「お誘い合わせの上」ではなく、対象は本町小の児童です。ただ低学年は保護者同伴で、高学年の保護者の方はご自由にとりという形で広報した。

【外部委員】本町小全員が全員放課後子ども教室に登録しているわけではないですね。

【コーディネーター】申込書が登録用紙という形になると思います。本町小は登録制ではありません。緊急連絡先がわかればいいのではないのでしょうか。

【外部委員】6地区は受付に名前を書いて、学年毎に報告するという受付方法。水でっぽう大会、緑小コンサート、本町小コンサートも同じ。

【コーディネーター】本町小は事前申込者の名簿を作り、突然来た人だけ名簿に記入してもらった。

【外部委員】四小も和太鼓イベントをやったが、放課後子ども教室に登録した子が参加カードを持ってくる。登録は1年間（3月まで）有効。

【委員長】東京都の講習会等では、放課後子ども教室でのイベント内容が多い。イベントが年数回なら、申込方法が通常と違っていい。

【外部委員】安全管理面でも、中学生が楽器等を運ぶ等の責任はどちらにあるのか。

【委員長】出演者の方だから、放課後子ども教室ではない。

【外部委員】イベントを実施するために色々なことに労力を取られるよりも、毎日の放課後子ども教室の回数を増やしたほうがいいのではないか。

【委員長】イベントは年に数回。本町小は普段は放課後子ども教室をやっている。

【外部委員】PTA活動との違いとどう説明ができるのか。

【委員長】PTAが呼ぶ場合はPTA主催。放課後子ども教室の事業のあり方を皆に知ってもらうためイベントをやってもいい。年数回ならば、普段の取り組みがおろそかになっているとはいえない。

2 放課後子ども教室の進捗状況について

【事務局】A3資料に、平成27年度、28年度執行率を表示した。11月現在で、前年度は56%、今年度は54%だが、まだ申請していない学校もあるため、前年度並みかそれ以上の執行率となる見込み。参加者も去年並の人数を達成できる見込み。

【外部委員】参加者はどういう定義か。東京都放課後子ども教室推進事業実施要綱第2の3で、対象の子どもの範囲が規定されている。この事業の対象者は子どもが主たるものと思

っているが、参加対象者はどこまでを考えているのか。

【事務局】 都要綱の子どもの範囲は子どもについてだけを規定しており、大人を排除する趣旨のものではない。都の報告書には大人高校生の人数の記載欄もある。

【外部委員】 大人は保険対象外だが、大人の事故対策はどう考えているのか。

【事務局】 今の保険は幼児も大人も保険対象外。明記の上自己責任にして頂きたい。

【外部委員】 「お誘いあわせの上」だと、事故の場合は誰が責任を取るのか。

【内部委員】 事情によります。イベントの主催者の責任で怪我をしたら、教育委員会が責任を持たざるを得ない。例えば家から学校に来る子どもは道路上の事故でも保険対象になるが、保険対象外の幼児や大人が、向かってくるときに事故にあった場合は市の管理下ではない事故、自己責任になる。ただ学校内で起きると、硬いものがあるのに保護していないとか、段差があるから悪い等という話になってくると、自分持ちといいながら、管理者は市長か教育委員会かと言われたときに、市長や教育委員会の責任が全て免除になる保証はない。

【外部委員】 他市のように個人負担を払う意識を持ったほうがいい。今PTAと放課後子ども教室であやふやになっているので、明確に分けるよう意識すべき。保険ももう少し高くして使い勝手のいい保険に個人負担で入る方がいい。

【委員長】 そういう保険の考え方で指導室なり教育委員会がもつかどうか。それを現場の実行者に求めても無理。事業を進める場合に、行政として何を考えるかということをおあなたが提案して行政側にそれを求める。もしそれを行政が全部払いきれなければ、何分かの1は参加者に求める等。それを行政にやってもらわないと。我々がシステムを考えるのではなく、行政が決めた方針を受けて我々が実行している。

【外部委員】 PTAで使っている保険は、なるべく多くの大人にも来て欲しいので、事前登録が無くても参加者全員を補償する保険に変えた。また大人高校生の参加者の規定は児童と違い、多くの大人で児童を見守るという意味合いなので、数字だけで全部一緒に扱うのは良くない。議論するなら、楽しみたいからか、安全管理の見学としてか等、どんな形で大人高校生が参加したのか把握できればいい。

【内部委員】 市も財政が厳しく、グレードアップした保険は予算が付かない。

【外部委員】 一小で変えた保険は、金額は変わらず内容は上がった。

【外部委員】 実行委員会では保険の問題を取り上げないのか。

【委員長】 実行委員会は制度の枠組みや大きな問題を討議する場ではない。

【コーディネーター】 実行委員会全体で課題や問題点を共有、検討しているが、運営委員からも違う視点での意見を伺いたい。

【内部委員】 コンサートという1面から見れば、PTAと放課後子ども教室は同じように見えるが、目的は違う。子どもの安全な居場所の他に、関係者のモチベーションや次世代への引き継ぎのため、一つの集大成としてやることは、放課後子ども教室の目的から逸脱しない。他の委員の感想、歴史、関係者の考え等も刷り合わせていけばいい。

【外部委員】 一小は二中の吹奏楽部コンサートをPTA文化部のイベントでやっています。

【委員長】 1年間の活動の中でイベントをやってもいいし、情操教育支援からも音楽、演劇、人形劇等があつていい。色々な角度で行うことが放課後子ども教室。学校教育の多面的な教

育で、生活様式の基礎を教えるということが一つの学校の目標。コンサートを止める理由はない。

【外部委員】放課後子ども教室は地域で子ども達を見守ることが目的で、一緒にコンサートを聞くと地域で一緒に子ども達を見守る意識が高まるので、やることはいい。ただ保険に入っていない方たちの対策はした方がいい。

3 平成29年度予算について

【事務局】平成29年度放課後子ども教室予算要望額等集計の、今年度の要望額合計が99万8千479円50銭。29年度予算は未確定ですが前年度同様と考え890万2千円とすると、要望額が108万円ほど超えているので、今後調整予定です。

【外部委員】行事保険をかけるなら、どこに入ってくるのか。

【事務局】保険料金はこの表にはなく、別に予算立てしてありますが、平成29年度予算要求はすでに締め切られたので、来年度には間に合いません。

【コーディネーター】全体でかなり予算オーバーしており、中学校区も大幅増で申請している。中学校区は多くても前年同様で、小学校の予算を優先するという方針になったはず。

【外部委員】小学校が優先で、中学校は後回し。学童数も多いですし、児童の放課後の居場所がないので、まず小学校の回数を増やしていただきたい。

【副委員長】子ども子育て会議、のびゆくこどもプランの中で、放課後子ども教室の事業が見直されている。その中で児童を手厚くするという計画になっているので、小学校を手厚くし、残りを中学に充てるという方向がいい。

【外部委員】中学校では地域みらい塾という制度があるが、小金井市ではどうか。

【内部委員】国や都のメニューの中で、コミュニティスクールという予算の補助メニューがあり、その中に放課後子ども教室も1つの補助メニューになるような位置付けです。同様に地域みらい塾という補助メニューがあるが、小金井市では申請していないので、来年度について予定はありません。

【委員長】地域みらい塾の主管はどこですか。

【内部委員】わかりません。ただ、放課後子ども教室自体も予算増が見込めない中、地域みらい塾も市の持ち出しが必要で、生涯学習課で取り組んでいくのは難しい。

【外部委員】たいそう教室が今年度で無くなり、代わりにトランポリン、新体操、フットサルが入り、その下にはたおり教室、ふじがね教室、放課後カフェ、緑中図書室開館がありますが、その位置付けをご説明いただけますか。

【事務局】レッツは、今までは各学校毎に提出されていましたが、29年度は3種類の教室で提出されたのでそのまま表示し、比較が出来るように学校毎の表示を残しました。

【外部委員】なぜレッツが放課後子ども教室の請負をしているのか。レッツは体操教室等を月謝制でやっており、放課後子ども教室を担うのは、昔はありがたかったが今は体験教室に参加して次は入会が目的。今はレッツはいらないと思います。レッツのホームページには、小金井市放課後子ども教室をやっているの信用が置けるというふうに謳っています。

【委員長】レッツは小金井市の職員研修もやっており、そちらの方がよほど信用がある。体

操は指導者を見つけることはとても難しく、体操をやってもらうのはいいことだ。

【外部委員】もしレッツが今後も続けるなら、トランポリンやフットサルの指導を希望する各コーディネーターが、レッツに依頼すべきではないか。

【コーディネーター】レッツの予算は無くし、レッツに教室をお願いしたいコーディネーターが、各小学校区の予算で謝礼をお支払するという形にすべきでは。

【外部委員】好き嫌いで判断せず、レッツが今まで放課後子ども教室を立ち上げる時から協力していただいたこと、体操は中々他では出来ないということ、2020年に向け体操日本という動きもあるということを考えて頂きたい。

【コーディネーター】本町小でもレッツは予算の中で年数回やっていたが、非常に好評で、毎回70～80人程度集まり、うまく運営していただいている。

【外部委員】はたおり教室、ふじがね教室、緑中図書室開館、放課後カフェは各学校区が立ち上がる前から実行委員会に残っている。誰が必要としていて、どの地区で開催するか等、検討したほうがいい。

【外部委員】はたおり教室は28年度から予算請求はない。

【委員長】本来は中学校にもコーディネーターを設置したほうが望ましい。コーディネーターが3人のときは中学校まで入れていたが、今は各小学校区だけにコーディネーターがいる。今までやってきた中学校区は実行委員会預かりという形で残してある。

【外部委員】緑中の29年度要望は、回数が相当増えている。調整しないと小学校区の予算が足りなくなる。運営委員会の意見として、実績に応じた予算配分にして、小学校区を充実した方がいい。

【外部委員】年度当初に教育長が放課後子ども教室と学童の一体化で充実するという話を仰られたが、それが来年度の予算にどう反映したのか。

【内部委員】中々財政状況が許さない状況で、事務局は29年度予算が横ばいと仮定で望んでいますが、予算獲得について我々は最後まで頑張りますが、結論は懐次第ということでご了解いただきたい。

【外部委員】学童問題、貧困対策もあり、放課後子ども教室への期待度は大きい。予算の裏付けをきちんとしていただきたい。

【外部委員】放課後子ども教室と学童の連携は喫緊の課題だが、児童青少年課から放課後子ども教室への要望を示していただいた方がやりやすい。

【委員長】実行委員会でも度々学童との連携は言われているが、全然進展していない。

【外部委員】小金井市でもコミュニティスクールや学校支援等も含め、中学校の放課後支援に力を入れられないか。子ども達は貧困格差があり学習支援が必要。

【外部委員】中学校の学習支援は、校長先生がそれぞれ自分のルートを使って、学習支援の先生をお願いしている。それは放課後子ども教室の予算とは違うのか。

【内部委員】指導室の制度で基本無償であり、放課後子ども教室とは違う制度です。

【委員長】放課後子ども教室の来年度の予算については、もう少し調整する。

4 その他

【内部委員】先月子ども子育て会議がありまして、放課後児童健全育成事業、学童保育所と、放課後子ども総合プランについての資料が提出され、子育て支援課から説明がなされました。次回は12月19日夜7時から。そこで学童や放課後子ども総合プラン等を含め、今後の計画が適切かどうかの議論がなされます。私どもで出している放課後子ども総合プランの、のびゆく子どもプランへの見直しといたしましては、平成29年度から31年度の3ヵ年間で、一体化を6箇所整備、連携型を3箇所整備したい、という形で出します。一体型については、推進委員会に学童関係者も入り、総合調整しながら学童のプログラムと放課後子ども教室のプログラムを刷り合わせていくということが行動計画の内容ですが、現状はそこまで書かなくても補助金の交付は従前どおり行えるという情報を得ておりますので、物理的に小学校区の中もしくは隣接している学童保育所があり、その小学校の中で放課後子ども教室が行われている学校区を一体化。離れた場所の学童保育所と放課後子ども教室への行き来がある小学校区については連携型、という位置付けで計画に明記したい。

【事務局】先日小金井小平国分寺と学芸大で三市連携講座をやりましたが、その内容が今日の17時からJCOMデイリーニュースで放送されます。よろしければご覧ください。また今日第4回運営委員会の会議録を配布しましたが、ご承認いただければホームページに掲載します。また各学校のスケジュールを配布しましたので、見学希望者は連絡をお願いします。

【コーディネーター】コンサートの件をはっきり伺いたい。緑小はそもそもPTAがやっていたものを、PTAと切り離し、10年も放課後子ども教室でやっている。来年いきなりPTAでやってくださいとは言えません。

【委員長】そうは言っていない。今までどおりやっていただきたい。

【外部委員】大人と幼児は社会福祉協議会等の安い行事保険に入ればいいのでは。

【外部委員】お誘いあわせの上ではなく、大人も幼児も行事保険に入ったほうが安心。

【コーディネーター】お金は取っていませんが、申し込みはきちんとやっています。

【内部委員】お金の徴収については、行政の判断が必要です。新たに保険に入らなければやってはいけないということではない。放課後子ども教室でお金を徴収することは異論が出てくるので、もし保険がないなら、ないということを明示してやるものと理解しています。

【外部委員】材料費は取って構わない。はたおり教室は材料費を取っていた。

【外部委員】保険対象外として明記すれば開催していいと思います。

【内部委員】行事のリスク等も見極めるべき。避難の時に押し倒れが出るような、そんな環境でやっているのか、少人数でやって保険料を頂く必要があるのか等、それらを見極めた上で、こちらは料金を取っていいのかどうか判断は検討するが、その検討判断でどの規模でやるのか情報を頂かないと、画一的に取っていいとか駄目とか、それだけだとちょっと議論が足りないかと思います。

【外部委員】このコンサートを楽しみにしている方たちの思いがあるので、保険の有無でなく、やっていいのではないですか。

【委員長】止める必要はない。保険の問題については事務局なり実行委員会なりで対応を考え、実施の方向で考えて欲しい。それでは次回2月15日水曜日、よろしくをお願いします。